

# 井手やまぶき相談 ・支援センターだより



井手やまぶき相談  
・支援センター

京都府立井手やまぶき支援学校 令和4年9月号



## 夏の研修会を開催しました。



8月3日、南山城相談支援センターと共催で夏の研修会を開催いたしました。暑い中御参加いただいた皆様ありがとうございました。

午前、四條畷学園大学の宮嶋愛弓先生から「子どもが食を楽しむための支援について」、午後は、広島大学の湯澤正通先生から「全ての子どもたちが参加しやすく学びやすい授業づくり～ワーキングメモリの視点から～」について御講演いただきました。

### 「子どもが食を楽しむための支援について」

宮嶋先生からは、食に偏りがある子どもの実態を評価する際には、食べられないものの理由を口腔面、感覚面、認知面、環境面から捉える方法や、好んで食べるものの理由も踏まえて考えてみることでヒントが見つかること、また、発達の状況や食事以外の場面の様子から支援を考える手がかりがある、という多角的な視点を教えていただきました。そして、後半は偏食への対応レシピを宮嶋先生による解説のもと、当センター長がコック長に扮し実演しました。

参加者から「偏食の要因がこんなに多くあることに驚いた。」「スモールステップで取り組むことが大事とわかった。」「ほめながら、焦らずに“食べることは楽しいこと”と伝えていきたいです。」等の感想をいただきました。



### 「全ての子どもたちが参加しやすく学びやすい授業づくり ～ワーキングメモリの視点から～」

湯澤先生からは、ワーキングメモリに関する基本的な考え方や、授業の作り方や児童生徒への支援方法、またワーキングメモリと心理面や言語面の状態との関連等、児童生徒をアセスメントする際に必要な様々な観点についてお話いただきました。

参加者からは、「ワーキングメモリは“心の黒板”であり、“脳の長期記憶への情報の入り口”という説明がわかりやすかった。」「ワーキングメモリが苦手な児童には視覚支援ばかり考えていたが、言葉の力がある児童には視覚支援と言葉を合わせて伝えることも大事と学んだ。」「授業のチェックリストを活用し、自分の授業を振り返ろうと思った。」等の感想をいただきました。

